

The Shouts(叫び)

Echoes from the Rice Riot.

(米騒動からのエコー)



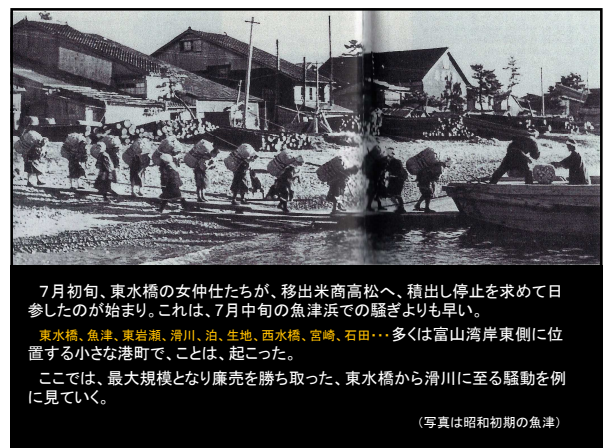
・ドキュメンタリー映画「三池 終わらない炭鉱の物語—Echoes from the Miike Mine」には、熊谷博子監督自ら、地下273mから吹き上げる万田坑の風の音に、100年前の坑夫たちの声を聴くというシーンがある。

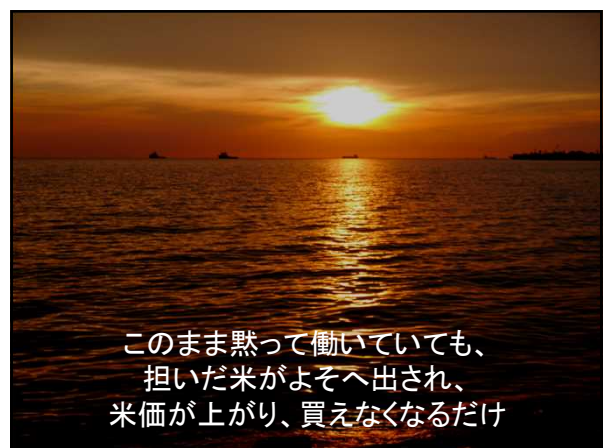
・その姿に倣って、富山湾岸の堆積岩を掘り返し、米騒動の叫び声を聴く。その「叫び」は、100年の通奏低音。列島の地下深くをこたまし、今日まで低く小さく響いている。



1918年米騒動

波打ち際、
米が買えずにまさに瀬戸際。
それでも立ち上がり、
米の値を吊り上げる資本主義の横暴に抗い、
魂の叫び声を上げた女達が出た。








ならば・・・



声を掛け合い、みんなで直談判に行くしかない



水橋商議所公認「ゆるきやら」

- ・ 何度も高松米商まで隊をなして歩き、米をよそへ出さず、自分たちに販売するよう「強願」
- ・ 米を運ぶ仕事を放棄し、水橋港からは出させず
- ・ 隣の滑川港から運び出すことも荷車に繋がり妨害

- ・ そのときの「叫び」は、「おなか、出らんか、出らんか。」
- ・ 「わしらみんなが一味やぞう。」
- ・ 貧民が徒党を組んで、直談判におしかけるといふスタイルを表現
- ・ 「米は命の糧。儲けるつもりなら、よそへは出させん。」
- ・ 「タダとは言わん。米を安く売ってほしいだけだ。」
- ・ 貧乏人でも同じ人間。「生の無条件の肯定」といふ価値観を表現

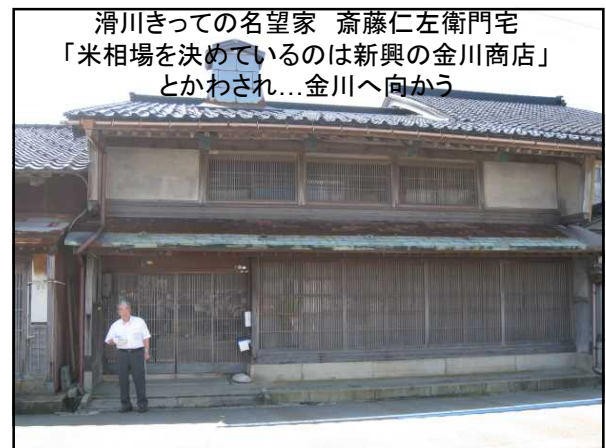
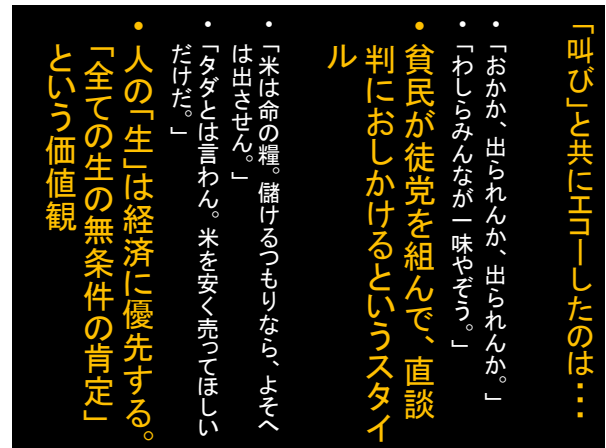
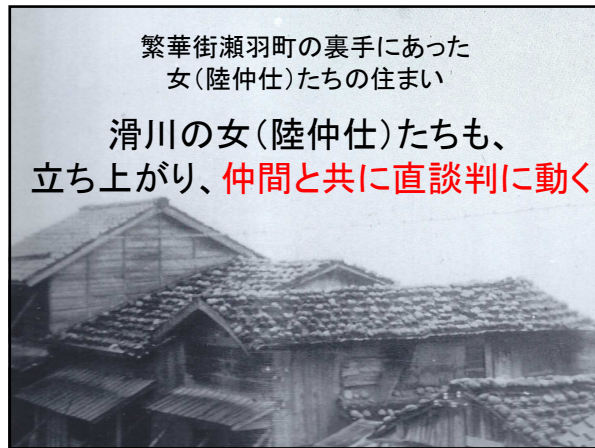


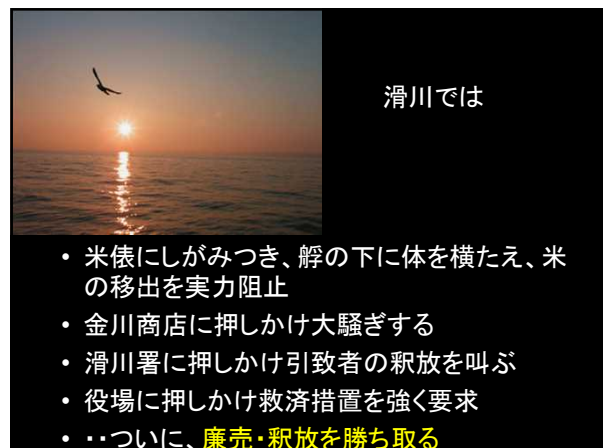
橋上で米を積んだ大八車の梶棒にすがり、男たちの足にすがり付いて、行く手を阻んだ

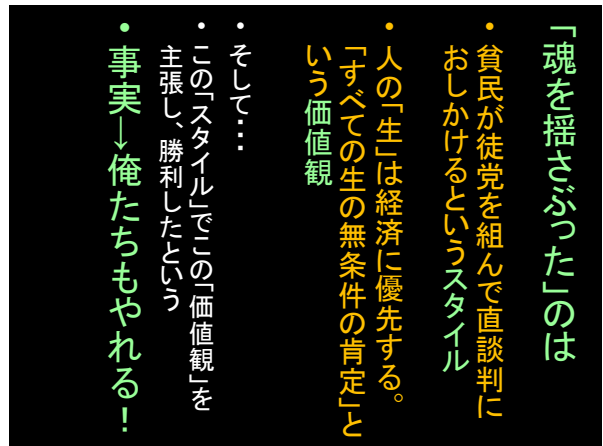
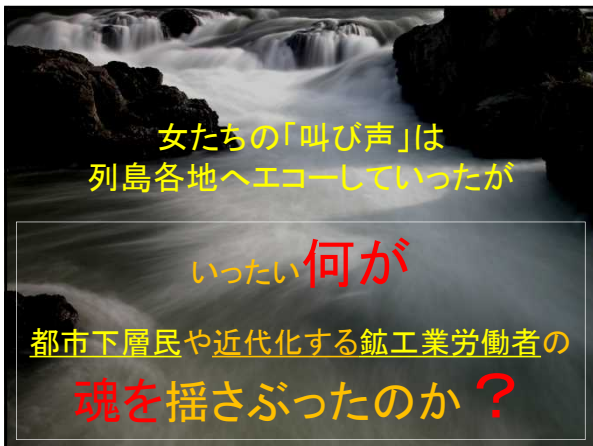
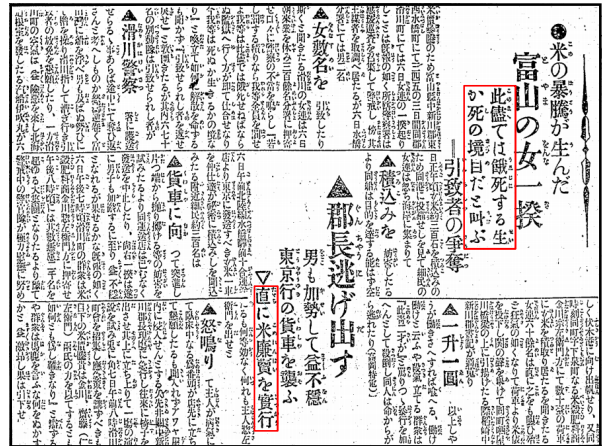
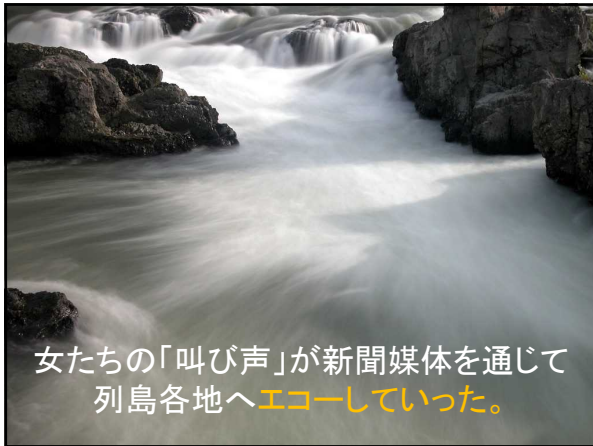


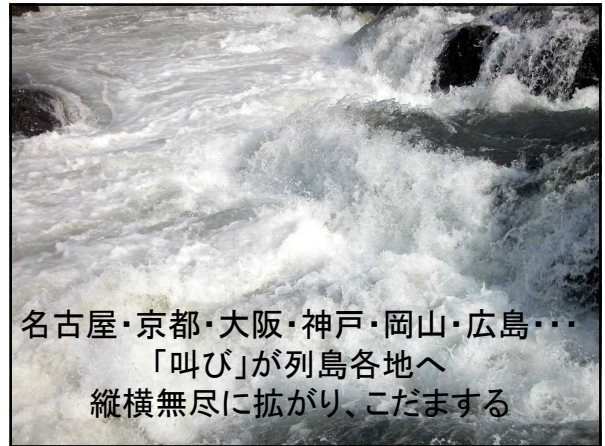
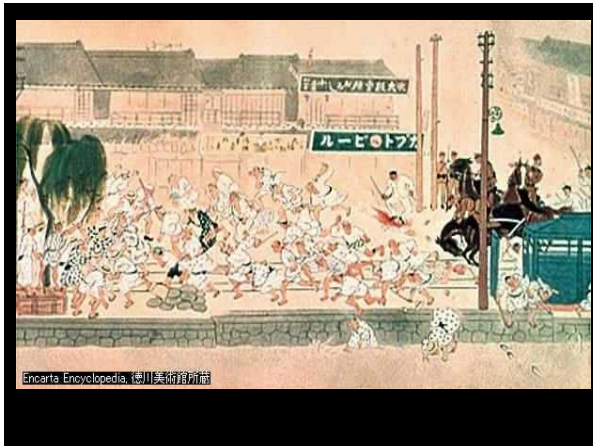
大八車のイメージ(写真は昭和初期)

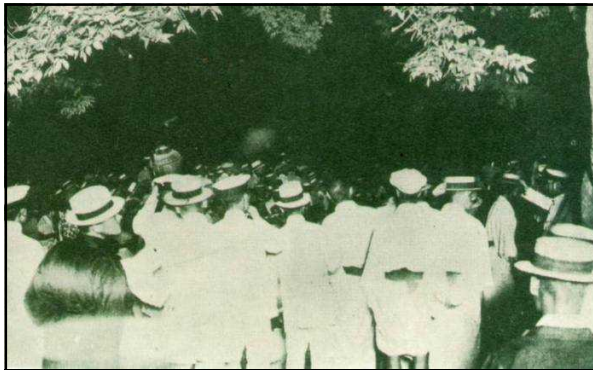












東京・日比谷公園
(大都市では集会後に「騒動」に発展)



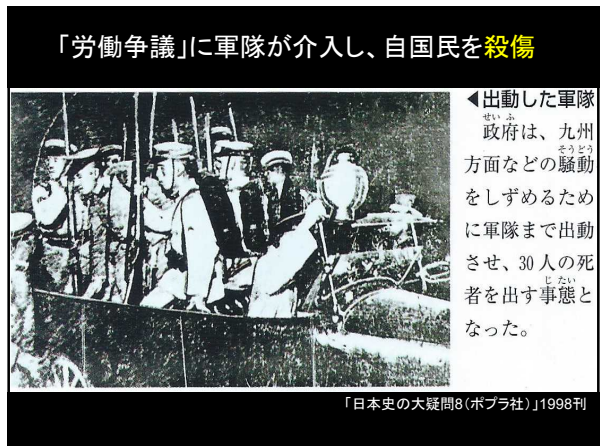
宇部を経て、最後は、九州は筑豊・三池の炭鉱(ヤマ)までエコーする



当時の坑夫たちの過酷な労働。賃金は券で支払われ、売店で高いコメを買わされていた。



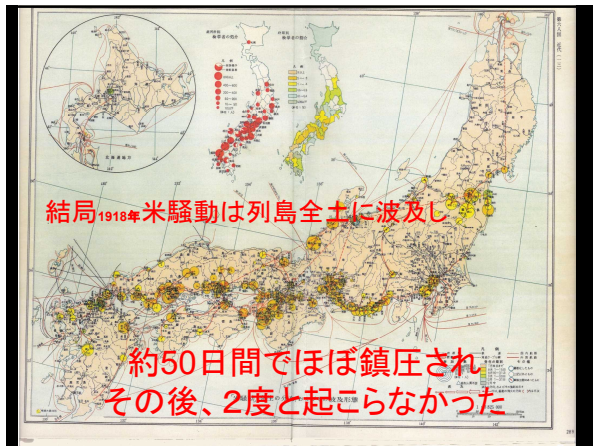
米の値下げと賃上げを直談判しようとする坑夫達に向けて、皇軍が突き刺し、撃った。



「労働争議」に軍隊が介入し、自国民を殺傷

◀出動した軍隊
政府は、九州方面などの騒動をしずめるために軍隊まで出動させ、30人の死者を出す事態となった。

「日本史の大疑問8(ポプラ社)」1998刊



なぜ、今、それを問題にするのか？
 魂を揺さぶる女たちの叫び声の中に、その答えはある。

時を超えてごだまし続ける「叫び声」の中に、まさに今後100年の列島社会を作る鍵がある。

今日、社会運動にとって
 ますます重要になってくるものは

直接的で水平的で自由な政治表現の「スタイル」
 「全ての生の無条件の肯定」という「価値観」



米騒動からのエコーを聴いて
 その志を受け継ぐのは
 生を否定されかねない彼らと
 共に闘う 私・たちだ！